Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HSC024-14 会場:201A 時間:5 月 24 日 12:15-12:30

潜在的洪水危険度に対する住民の意識向上ークロアチア、ザグレブ
Awareness Raising in People for Potential Flood Risk - Zagreb, Croatia

木村 直子 [1*], 山敷 庸亮 [1], イヴィカ　キシッチ [2]
Naoko Kimura[1*], Yosuke Yamashiki[1], Ivica Kisic[2]

[1] 京都大学防災研究所, [2] ザグレブ大学
[1]DPRI - Kyoto University, [2]University of Zagreb

ザグレブ市はクロアチア国の首都であり、国の商業、産業、農業の中心として発展してきた。経済、文化、政治の発展とともに市の人口も増加し、現在もその規模は拡大を続けている。特に、1960 年代以降、サバ川沿いの平野部に近代的な都市形成・発展が進んだ。しかし、1964 年に多量の降雨による大規模な洪水が発生し、市内中心部とその住民に甚大な被害を及ぼした。この経験から、増水時に遊水地へ水を導く放水路（Sava-Odara Canal）が建設されてからは、ザグレブ市内中心部において目立った大きな洪水は起こっていない。一方、遊水地の住民はこの放水路からの水による洪水に度々苦しんでいる。事実、2010 年 9 月にザグレブ市郊外の農村部において大規模な洪水が発生し、深刻な被害をもたらした。こうした背景から、ザグレブ市内都市部と郊外の農村部の住民の潜在的な洪水被害への準備や意識には少なからず温度差があると考えられる。本研究では、3D などの IT ツールを用いた防災教育が、予期せぬ洪水に対する人々の意識啓発及び向上や準備に寄与する範囲について社会科学的手法を通して考察を行う。

キーワード: 洪水, クロアチア, 意識向上, IT ツール
Keywords: flood, Croatia, awareness raising, IT tool